



低侵襲最新医療システムを提供する



株式会社ウイン・インターナショナル 2012年3月期決算説明資料

WIN INTERNATIONAL CO., LTD.

2012年5月11日

証券コード:2744

株式会社ウイン・インターナショナル

代表取締役社長 秋沢 英海

1. 当社の使命	3
当社の使命～社名の由来	4
医療が直面する問題と改善に必要な取組み	5
当社の取組み～「低侵襲最新医療システム」の推進	6
2. 決算概要報告	7
決算サマリー	8
前期決算の総括	9
収益性の分析	13
3. 基本戦略と今期の戦術	15
当社の強みを活かした3つの基本戦略	16
今期予想(2013年3月期予想)	19
今期予想の前提～特定保険医療材料価格改定の影響	20
今期予想の根拠	21
医療機関の診療報酬改定の影響と営業戦術	22
4. 長期トレンド・株価指標	28
当社の長期トレンド	29
株価指標	30
(ご参考)	32
主要特定保険医療材料別分析	34

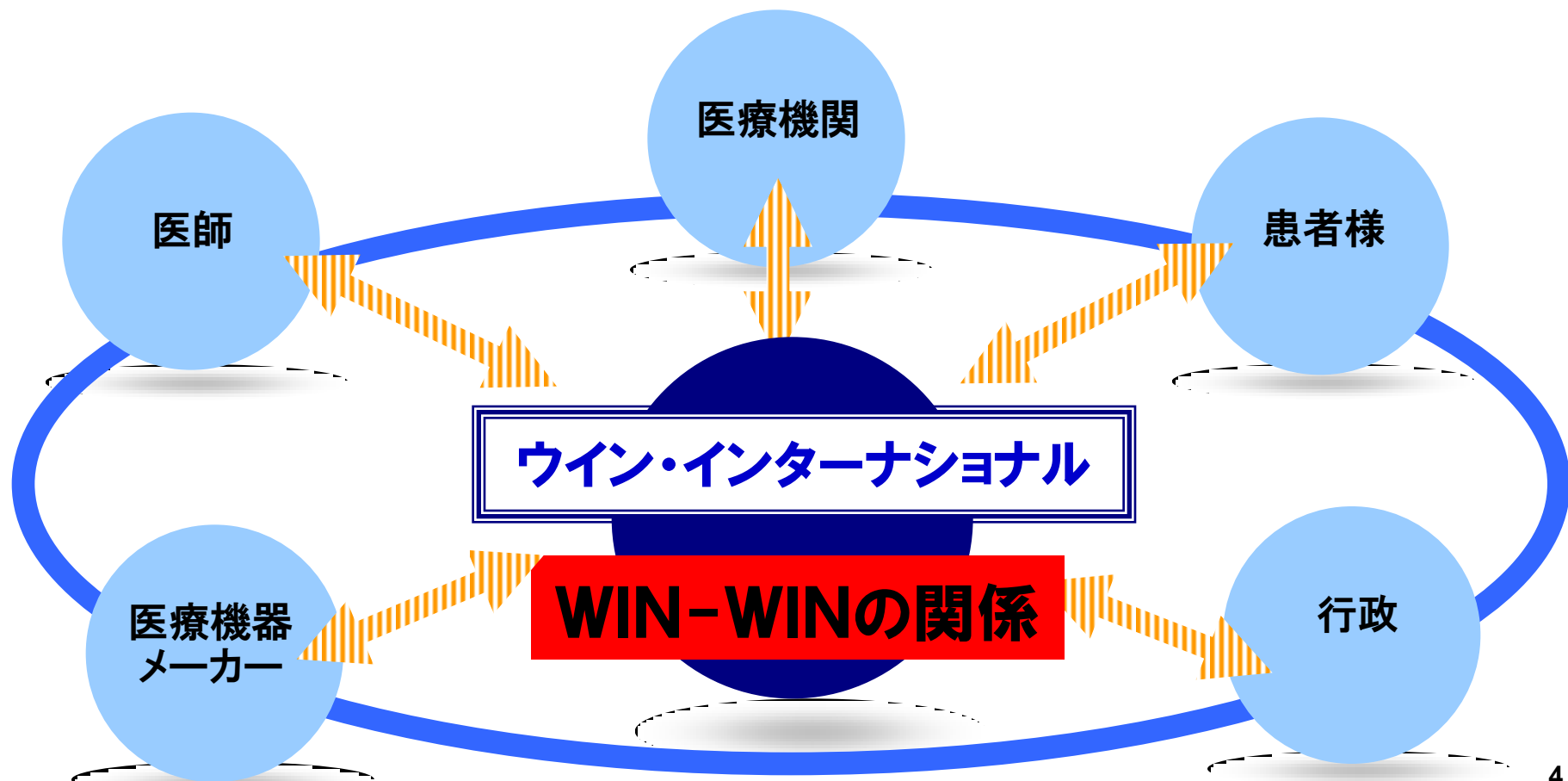


WIN INTERNATIONAL CO.,LTD.

1. 当社の使命

“New Innovative Wave”

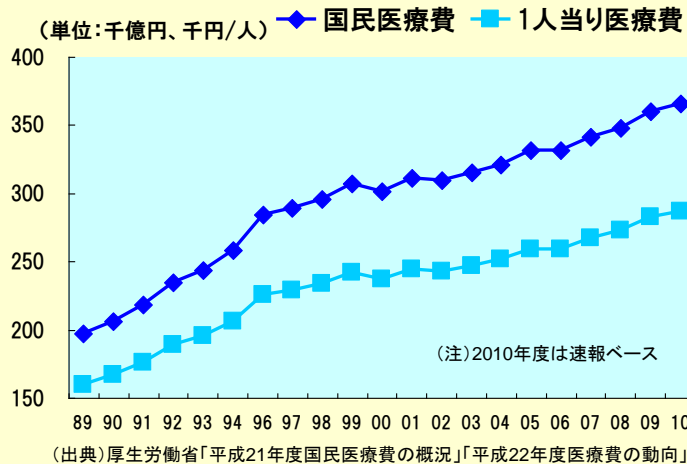
WIN(ウイン)は、安全・安心・信頼を第一義に、創意工夫と感謝の念を持って、社員総意で企業価値を高め、社会に対して貢献します。



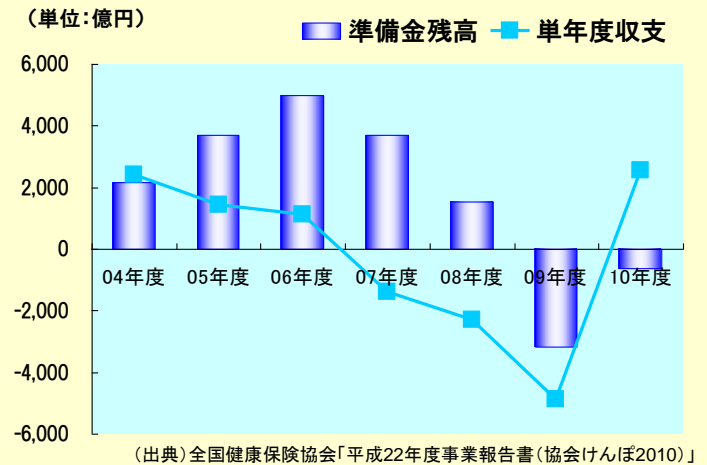
医療が直面する問題と改善に必要な取組み

医療費の問題

(1): 国民医療費の増大



(2): 医療財政の悪化

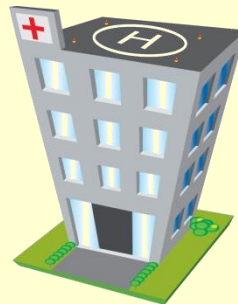


改善に必要な取組み

効率的・効果的な医療資源の配分



医療費の最適化
適正化余地の追及



病院経営の合理化
(集中と選択)

高品質・効率的医療の提供



より効果的な治療
必要とされる分野の充実



医療技術の
進歩の促進・導入

患者様の負担軽減

医療現場への
安全・安心・信頼

低侵襲最新医療システム

病院経営の合理化
(選択と集中)

国民医療費の抑制



WIN INTERNATIONAL CO.,LTD.

2. 決算概要報告

	2011年3月期 (実績)		2012年3月期 (実績)		
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	前年 同期比 (%)
売上高	29,258	100.0	32,957	100.0	+12.6
営業利益	1,449	5.0	1,648	5.0	+13.7
経常利益	1,461	5.0	1,657	5.0	+13.5
当期純利益	854	2.9	955	2.9	+11.9
1株当たり当期純利益 (円)	69.41	—	78.23	—	+12.7
1株当たり純資産 (円)	542.47	—	594.88	—	+9.7
1株当たり配当金 (円)	25.00	—	28.00	—	+12.0

過去最高の売上高、利益の達成、2桁成長を記録

【事業環境】

- ・東日本大震災 ⇒ 影響は限定的、メーカーに一時影響あり
- ・償還価格改定 ⇒ 前期なし
- ・DES新製品の上市 ⇒ 国内メーカー初のDES発売、メーカー間のシェア競争
- ・低侵襲治療の普及 ⇒ デバイスの性能・効果の向上、安全性・有効性の確認、適用の拡大により普及が加速



【取り組み】

- ・新規開拓営業(首都圏の強化、エリアの拡大)
 - * 東京営業所の2分化(東京営業所・首都圏営業所)、東松山出張所、山口出張所の開設
- ・営業人員の増員
 - * 主要分野PCIIIに加え、成長期待分野(CRS、CVS、DMS)の営業人員を強化
- ・総合的な営業提案
 - * 病院経営全般の提案を実施(人材補強施策、設備投資施策、集患施策等)
- ・メーカーとの交渉
 - * ボリュームディスカウント、製品一括購入、販売数量目標を設定する成功報酬プログラムの条件交渉

要約損益計算書

	2011年3月期		2012年3月期		
	金額(百万円)	百分比(%)	金額(百万円)	百分比(%)	前年同期比(%)
売上高	29,258	100.0	32,957	100.0	+12.6
売上原価	25,322	86.5	28,603	86.8	+13.0
売上総利益	3,936	13.5	4,354	13.2	+10.6
販売管理費	2,486	8.5	2,706	8.2	+8.8
営業利益	1,449	5.0	1,648	5.0	+13.7
営業外収益	14	0.0	11	0.0	▲ 21.4
営業外費用	2	0.0	1	0.0	▲ 41.6
経常利益	1,461	5.0	1,657	5.0	+13.5
特別利益	5	0.0	7	0.0	+27.5
特別損失	3	0.0	7	0.0	+100.5
税前利益	1,462	5.0	1,657	5.0	+13.3
税金費用	608	2.1	702	2.1	+15.3
当期純利益	854	2.9	955	2.9	+11.9

売上高 +12.6%
新規取引先の獲得
・PCI、CVS、CRSでグループ
病院や有力病院を顧客に
既存取引先との取引拡大
・病院の手術数増
・院内開拓で取引領域拡大
大型機器、設備の売上増加

売上総利益率 ▲0.24pt
・消耗品関連 13.2%
・その他 15.6%

販管费率 ▲0.29pt
営業部門強化の為、人件費等
が増加したが、売上の伸びが
上回った。

要約貸借対照表

(単位:百万円、%)	2011年3月末		2012年3月末			(単位:百万円、%)	2011年3月末		2012年3月末		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額		金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	13,026	88.4	14,865	89.6	+1,838	流動負債	7,848	53.3	9,146	55.1	+1,297
現金・預金	4,026	27.3	3,980	24.0	▲ 45	仕入債務	7,235	49.1	8,315	50.1	+1,079
売上債権	7,947	54.0	9,833	59.3	+1,886	短期有利子負債	72	0.5	41	0.2	▲ 31
商品	778	5.3	696	4.2	▲ 81	未払法人税等	286	1.9	419	2.5	+132
未収入金	181	1.2	239	1.4	+57	その他流動負債	253	1.7	370	2.2	+116
その他流動資産	93	0.6	115	0.7	+22	固定負債	205	1.4	189	1.1	▲ 15
固定資産	1,701	11.6	1,729	10.4	+27	長期有利子負債	41	0.3	—	—	▲ 41
有形固定資産	1,168	7.9	1,196	7.2	+28	その他固定負債	164	1.1	189	1.1	+25
無形固定資産	95	0.6	122	0.7	+26	負債合計	8,054	54.7	9,335	56.3	+1,281
投資その他資産	437	3.0	409	2.5	▲ 27	純資産合計	6,674	45.3	7,259	43.7	+585
資産合計	14,728	100.0	16,595	100.0	+1,866	負債・純資産合計	14,728	100.0	16,595	100.0	+1,866

売上債権

+1,886M

売上増加による受取手形・売掛金の増加

仕入債務

+1,079M

売上増に伴い、仕入も増加し、支払手形、買掛金が増加
・商品一括購入+106M
*前期末は震災により、実施せず

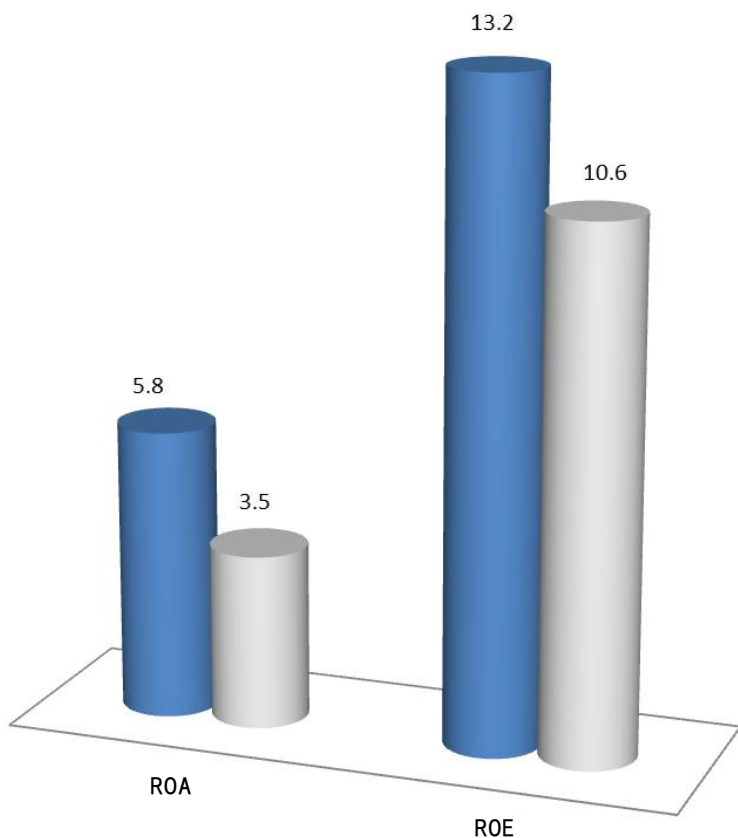
要約キャッシュ・フロー計算書

	2011年3月期	2012年3月期	
	金額(百万円)	金額(百万円)	増減額(百万円)
営業キャッシュ・フロー	616	596	▲ 20
税引前当期純利益	1,462	1,657	+194
減価償却費	135	181	+46
売上債権の増減額(▲は増加)	330	▲ 1,886	▲ 2,216
たな卸資産の増減額(▲は増加)	138	81	▲ 56
仕入債務の増減額(▲は減少)	▲ 714	1,079	+1,793
法人税等の支払額	▲ 711	▲ 597	+114
投資キャッシュ・フロー	▲ 123	▲ 200	▲ 76
有形固定資産の取得による支出	▲ 125	▲ 141	▲ 15
投資有価証券の売却による収入	34	28	▲ 6
財務キャッシュ・フロー	▲ 399	▲ 441	▲ 42
配当金の支払額	▲ 319	▲ 307	+12
現金・現金同等物の増減額(▲は減少)	93	▲ 45	▲ 139
現金・現金同等物の期首残高	3,933	4,026	+93
現金・現金同等物の期末残高	4,026	3,980	▲ 45

収益性の分析

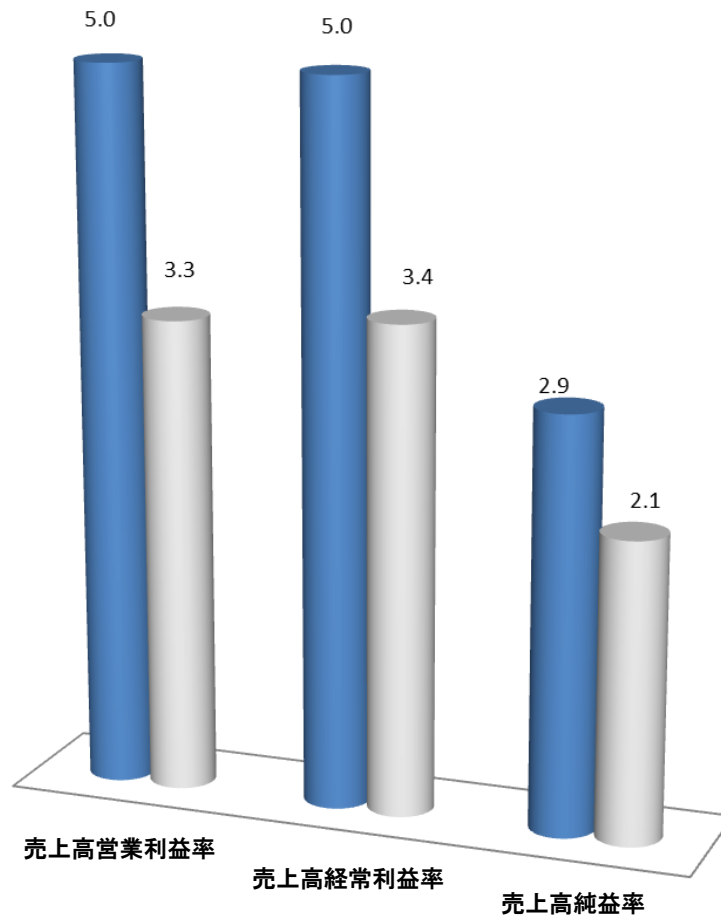
ROA・ROE (%)

■ ウイン・インターナショナル ■ 医療卸平均



利益率 (%)

■ ウイン・インターナショナル ■ 医療卸平均

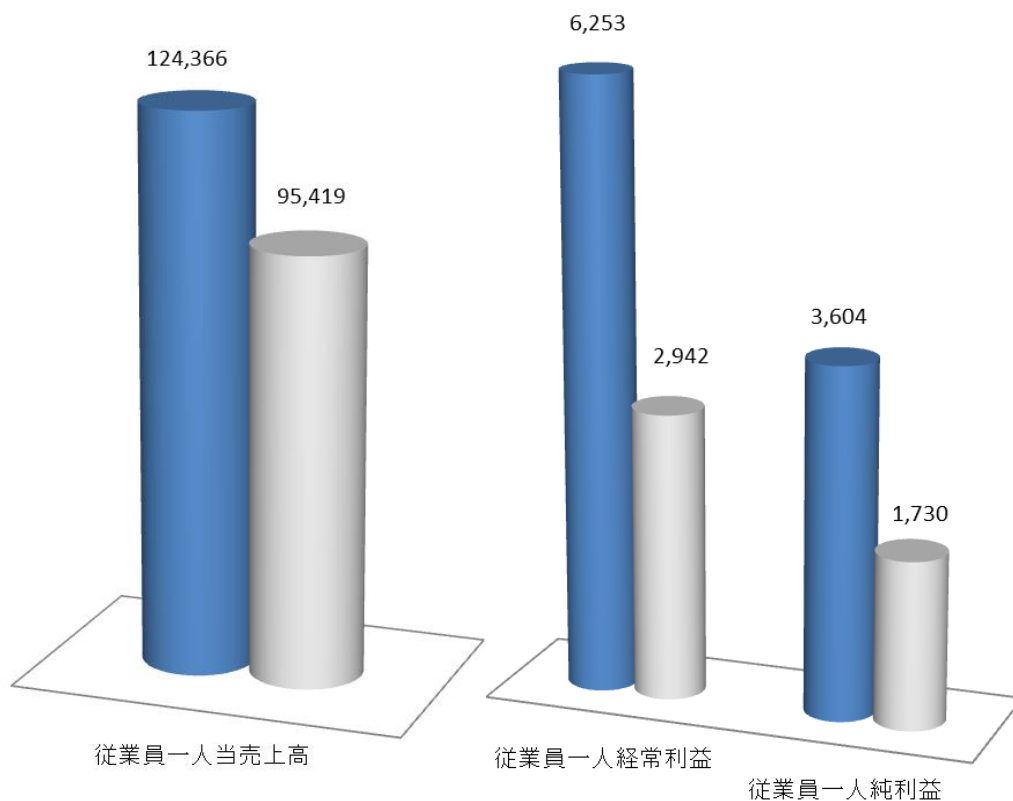


出所: KCR総研(2012年4月30日時点 医療卸平均はウイン・インターナショナル(WIN)、山下医療器械、メディアスホールディングス、シップヘルスケアホールディングス、ディービーエックス、日本ライフラインの6社。フローは直近予想(※WIN、日本ライフラインは直近発表数字)、アセットは直近開示資料を基に作成)

生産性・安全性の分析

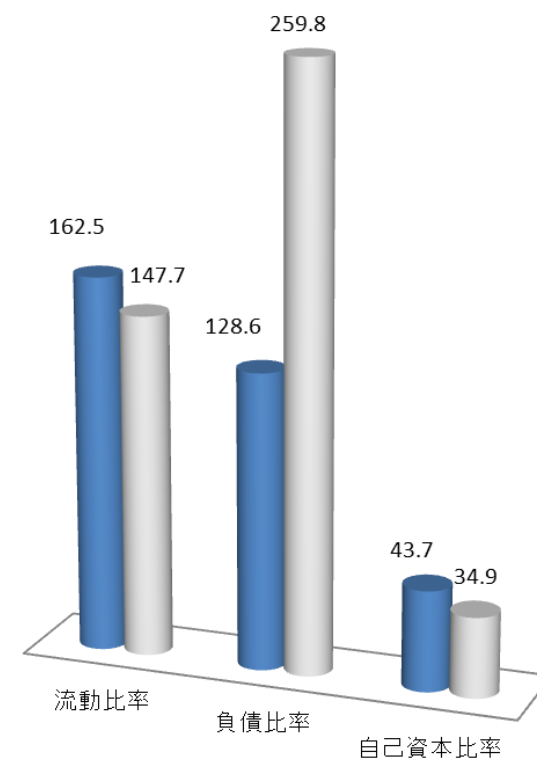
生産性(千円)

■ ウイン・インターナショナル ■ 医療卸平均



安全性(%)

■ ウイン・インターナショナル ■ 医療卸平均



出所: KCR総研(2012年4月30日時点 医療卸平均はウイン・インターナショナル(WIN)、山下医療器械、メディアスホールディングス、シップヘルスケアホールディングス、ディービーエックス、日本ライフラインの6社。フローは直近予想(※WIN、日本ライフラインは直近発表数字)、アセットは直近開示資料を基に作成)



WIN INTERNATIONAL CO.,LTD.

3. 基本戦略と今期の戦術

POINT

- ① 病院経営の目線からの提案
- ② 専門性
- ③ 集中戦略

総合提案(医師、経営陣、事務方)

それぞれのニーズ(医療の質、将来展望、収益性等)に対し、最適な提案



経営陣



医師



事務方

3つの基本戦略で成長を加速する

POINT①: 病院経営の目線からの提案

- ・医療機関を構成する
3極(医師、経営陣、事務方)
それぞれのニーズに沿った各種施策提案
人材補強施策 / 設備投資施策 / 集患施策

量の拡大

業界再編を勝ち抜く
体制の整備と運用

適正利潤

POINT②: 専門性

- ・高度な商品知識、サービスの提供
- ・医療施設の高度医療化をサポート
- ・医療機器メーカーへの提案

POINT③: 集中戦略

- ・顧客: 有力医療施設(プロ中のプロ)との取引拡大
- ・製品: 低侵襲医療分野の高付加価値製品
- ・エリア: 首都圏での販売強化→シェア拡大(全国展開)

今期予想(2013年3月期予想)

	2012年3月期(実績)		2013年3月期(予想)		
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	前期比 (%)
売上高	32,957	100.0	34,049	100.0	+3.3
営業利益	1,648	5.0	1,652	4.9	+0.2
経常利益	1,657	5.0	1,657	4.9	+0.0
当期純利益	955	2.9	1,009	3.0	+5.7
1株当たり純利益(円)	78.23	—	82.74	—	+5.8
1株当たり配当金(円)	28.00	—	29.00	—	+3.6

償還改定の年であるが、増収増益を目指す

今期予想の前提 ～特定保険医療材料価格改定の影響

2012年 診療報酬改定の概要 全体+0.004%、診療報酬+1.38%、薬価改定▲1.38%（内、材料価格改定▲0.12%）

→当社への影響は2012年3月期売上を基準とした場合、約▲9.0%（2010年度と同じ規模）

（単位：千円）

償還価格	2010年	2012年	差額
■ 虚血性心疾患関連(PCI)			
PTCAバルーンカテーテル（※）	100	79	▲ 20
BMS(ベアメタルステント)	230	221	▲ 9
DES(ドラッグエリユーティングステント)	345	295	▲ 50
IVUS(血管内超音波診断用カテーテル)	128	115	▲ 13
■ 心臓律動管理関連(CRS)			
ペースメーカー関連（※）	1,160	1,000	▲ 160
ICD(植込み型除細動器等)（※）	3,210	3,060	▲ 150
CRT-D関連等(両室ペースメーカー機能付き植込型除細動機)(※)	4,190	4,090	▲ 100
アブレーション関連(心筋焼灼術用カテーテル)(※)	175	158	▲ 17
■ 心臓血管外科関連(CVS)			
ステントグラフト(腹部大動脈用・メイン部分)（※）	1,610	1,520	▲ 90
■ 末梢血管疾患関連(PPI)			
PTAバルーンカテーテル（※）	108	103	▲ 5

（※）各商品区分の代表的な商品の償還価格を記載

2013年3月期 売上高 34,049百万円（前期比+3.3%）

【マイナス要素】

診療報酬改定 ▲9.0%

【プラス要素】 +12.3%

既存取引先の売上増

・病院の症例数の増加

低侵襲治療の浸透、患者の集中、診療報酬(手技料等)の引き上げ

・営業活動による取引量の増加

院内シェアの拡大、診療領域の拡大(医師に対しPCIに加えPPI(PTA)の営業活動を実施)

・その他

デバイス使用率の上昇(DES/IVUS等)、1症例あたりの製品使用数の増加、設備投資・大型機械案件の獲得

新規取引先の獲得等

・首都圏を中心に各エリアで営業活動を展開

注力エリア: 関東北部エリア、中四国エリア

・出張所を開設

2012年2月 山口出張所、2012年4月 札幌出張所開設

医療機関の診療報酬改定の影響と営業戦術①

行政の方向性	実施事項	顧客への影響
医療技術の導入等 ・充実が求められる分野	■ 医療技術の適切な評価 新規技術の保険導入及び既存技術の再評価	急性期病院では収益が改善

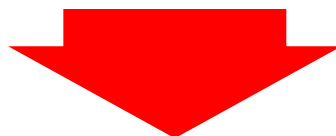
(単位:点 ※1点=10円)

診療報酬	2010年	2012年	差額
■ 虚血性心疾患関連(PCI)			
経皮的冠動脈ステント留置術	22,000	24,380	2,380
経皮的冠動脈形成術:高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの	23,000	24,500	1,500
経皮的冠動脈形成術:エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの	-	24,500	24,500
■ 心臓律動管理関連(CRS)			
【ICD】植込型除細動器移植術	17,030	31,510	14,480
【CRTD】両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術	21,000	32,000	11,000
【ABL】経皮的カテーテル心筋焼灼術(その他のもの)	26,440	34,370	7,930
■ 心臓血管外科関連(CVS)			
ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	47,400	49,440	2,040
■ 末梢血管疾患関連(PPI)			
四肢の血管拡張術・血栓除去術	15,800	20,540	4,740
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	-	18,080	18,080



当社主力・注力分野において診療報酬(手技料)が引上げ、症例数増加が見込まれる。 22

行政の方向性	実施事項	顧客への影響
医療・介護連携等の推進 ・在宅医療の推進	■ 在宅療養に関する医療機器/管理料の評価 間歇注入シリンジポンプ加算: 1,500点→2,500点(+1,000点) 在宅自己注射指導管理料: 820点→1,230点(+ 410点)	診療報酬が上がり、 ・既存取引先は収益が改善 ・新規の導入検討が見込まれる



インスリンポンプ療法の普及の推進

【状況】

- ・糖尿病患者は全国に2,210万人と推定(参考:「国民健康・栄養調査(平成19年)」)
(糖尿病が「強く疑われる人」890万人、「可能性を否定できない人」の1,320万人)
- ・現在、日本における一般的な治療法はインスリン注射療法である。

【取組み】

- ・**糖尿病治療の新しい治療法(インスリンポンプ療法)の普及、啓蒙サポート**
*インスリンポンプ療法は、患者様の負担軽減によるQOL(生活の質)の改善が可能となる治療法
- ・**合併症により循環器疾患となった患者様に対応する当社ネットワークの活用**
*インスリンポンプ療法の普及に取組むとともに、糖尿病による合併症(循環器疾患)への対応サポート



【インスリンポンプ療法】

- ・インスリンを持続的に注入するコンピュータ制御の小型医療機器による治療法
- ・欧米では普及していますが、日本国内では一般的でない治療法

PCI

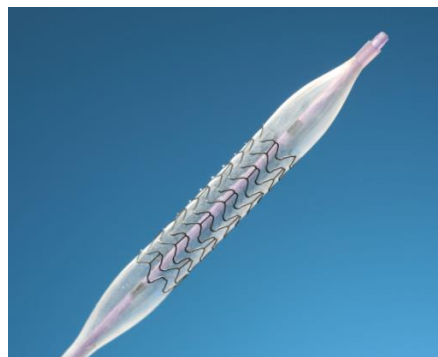
(虚血性心疾患関連)

PTCAバルーンカテーテル



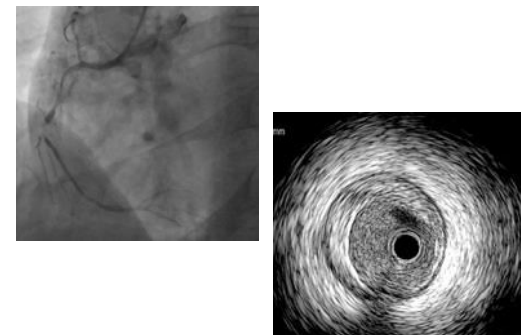
血管内でバルーンを膨らませ、血管が狭くなっている（狭窄）箇所を広げる。

薬剤溶出性ステント(DES)



筒状の網目の金属を血管内に留置し、再狭窄を防ぐ。

IVUS(血管内超音波診断用カテーテル)





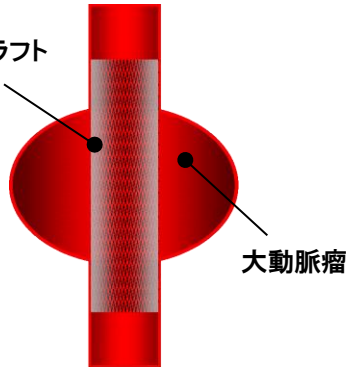
超音波で血管内部を映像化し、治療前後に使用する。

・当社売上で最も販売数量が多い製品
→販売価格は高くはないが、利益率が高い

・診療報酬の引上げ→症例数増
22,000点→24,380点(+2,380点)
・1症例あたりの使用量の増加
→今期もその傾向が継続。
・新製品の上市で価格交渉等も優位に。

・PCIの治療前後(診断・経過観察等)に使用。
・PCI関連の診療報酬が引き上げ
→症例数増→ IVUSの販売増
・PCIでの使用率上昇
・1症例あたりの使用量の増加
→今期もその傾向が継続。

ビジネス機会の拡大～注力分野～

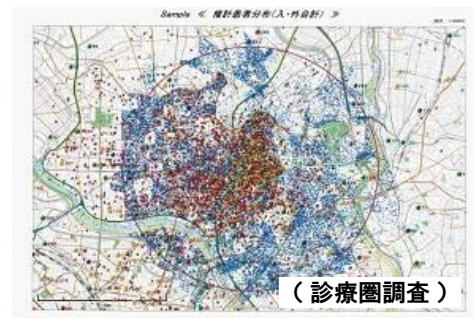
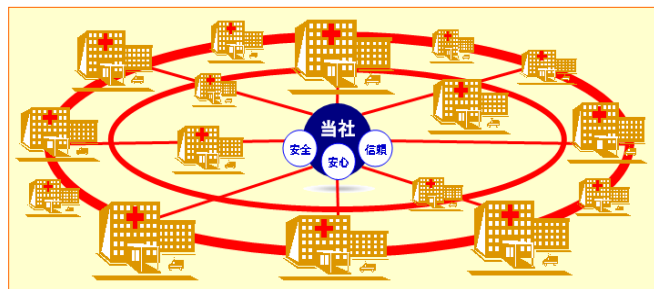
DMS	CRS	CVS
(糖尿病関連)	(心臓律動管理関連)	(心臓血管外科関連)
<p>インスリンポンプ (レンタル・販売)</p>  <p>インスリンポンプ療法： インスリンを持続的に注入する携帯型の小型医療機器による治療法、インスリン注入時の負担が軽減され、患者様の生活の質の向上が期待できる</p>	<p>ICD(植込み型除細動器)</p> <p>ペースメーカー機能に加え、致死性の異常に速い拍動を止め、心臓に正常な拍動を取り戻す機能がある</p>  <p>CRTD (両心室ペーシング機能付 植込み型除細動器)</p> <p>両心室の電気刺激により、心臓のポンプ機能を改善させ、致死性の異常拍動を止める機能がある。</p>	<p>ステントグラフト</p>  <p>大動脈瘤</p> <p>ステントグラフト内挿術： ステント(筒状の金属)を取り付けた新型人工血管を患部に留置し、大動脈瘤への血流を遮り、破裂を防ぐ。</p>
<p>新製品:持続グルコースモニター「メトロニックiPro®2」 診療報酬: 在宅自己注射指導管理料: 820点→1,230点(+410点) 間歇注入シリンジポンプ加算: 1,500点→2,500点(+1,000点)</p>	<p>新製品:MRI対応PM(ペースメーカー) 診療報酬: 移植術 ICD:17,030点→31,510点(+14,480点) CRTD:21,000点→32,000点(+11,000点)</p>	<p>診療報酬: ステントグラフト内挿術(腹部大動脈) 47,400点→49,440点(+2,040点)</p>

行政の方向性	実施事項	顧客への影響
医療従事者の負担軽減 ・外来の機能分化	■ 特定機能病院等の初・再診料 紹介率の低い病院の初診料外来診察料の引き下げ → 専門外来の強化/大病院の一般外来の縮小	病院と診療所等の繋がりを 模索する動き



「病診連携」(病院と診療所の連携)のコーディネート、営業活動のサポート

- ・診療所＝一般外来、大病院＝専門外来という機能分化を進め、顧客医療機関の効率性・収益の改善に繋げる。
- ・大病院から診療所への患者様の紹介、診療所から大病院への患者様の紹介の流れを作り、双方の患者増とする。
- ・診療圏調査等を活用した患者数、症例数増加提案など、最新の情報、医療現場に立脚した支援を行う。

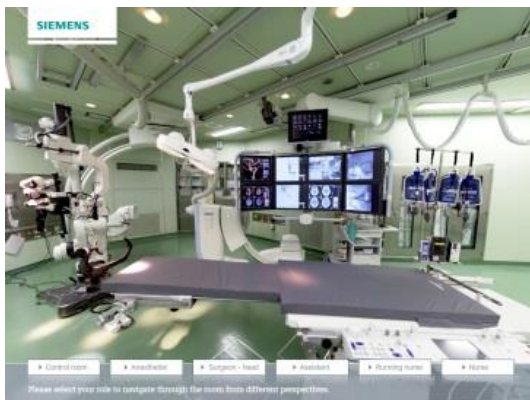


行政の方向性	実施事項	顧客への影響
医療技術の導入等 ・効率化余地のある 領域の適正化	■コンピューター断層撮影診断料の見直し 64列以上マルチスライス型CT: 900点→ 950点(+50点) 3テスラ以上のMRI : 1,330点→1,400点(+70点)	設備投資意欲の向上



設備投資・大型機器の提案

- ・顧客医療機関の現状を分析した上、機器選定＋投資回収プラン提示により、総合的設備投資提案を実施
- ・高度設備、高性能機器の導入により、患者様の満足度の向上、顧客医療施設の効率性も改善

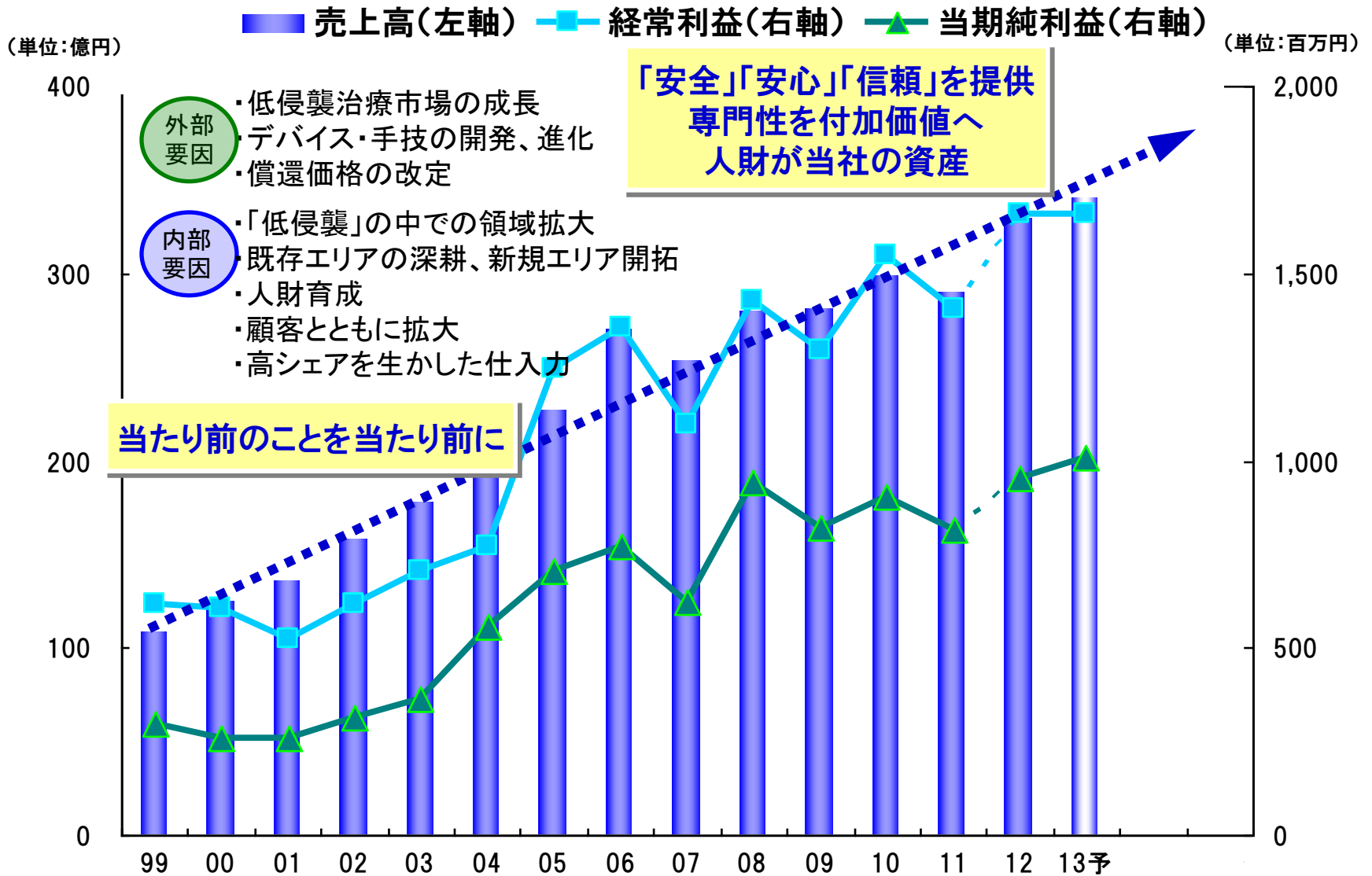




WIN INTERNATIONAL CO.,LTD.

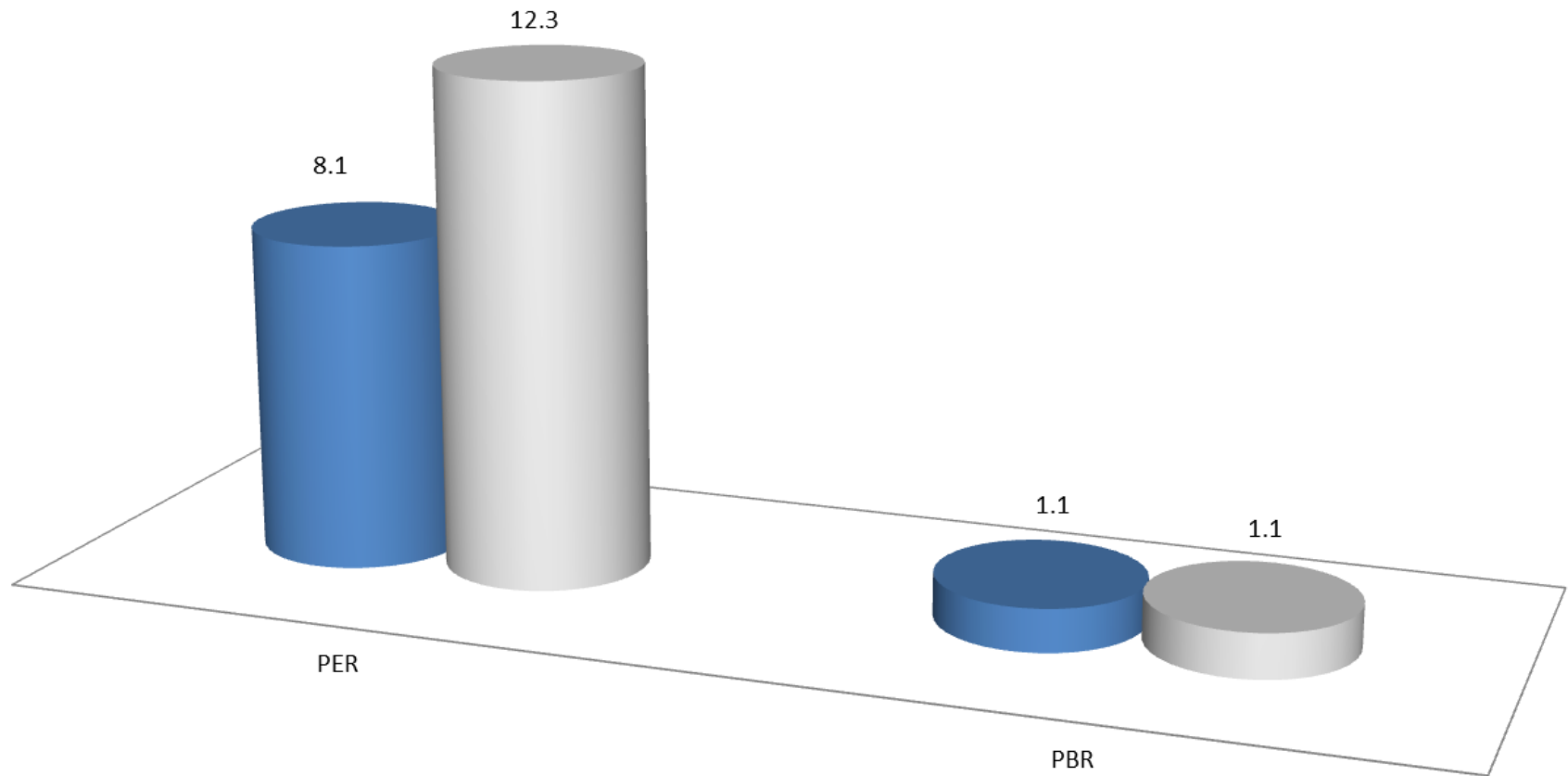
4. 長期トレンド・株価指標

当社の長期トレンド



PER・PBR(倍)

■ ウイン・インターナショナル ■ 医療卸平均

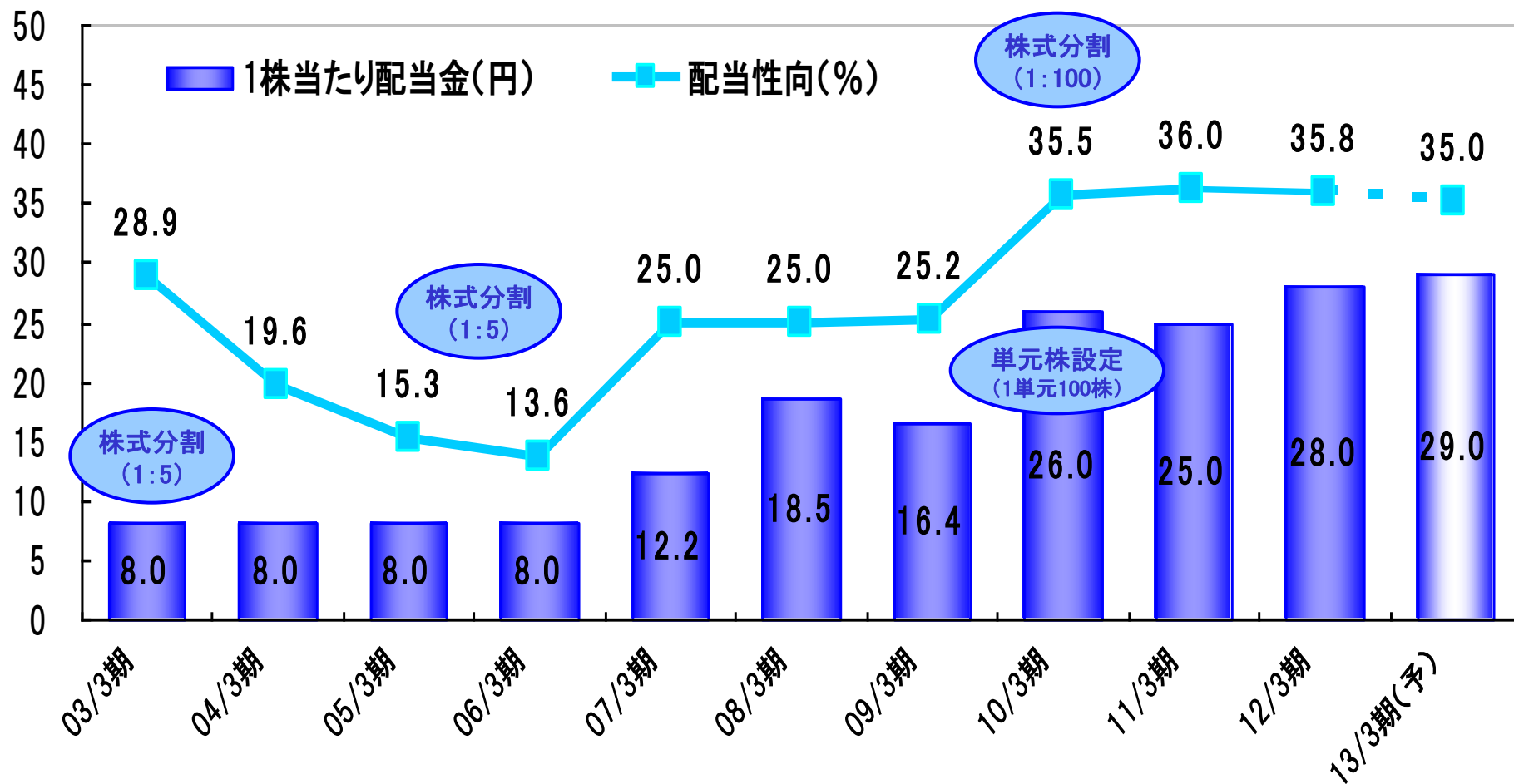


出所: KCR総研(2012年4月30日時点 医療卸平均はウイン・インターナショナル(WIN)、山下医療器械、メディアスホールディングス、シップヘルスケアホールディングス、ディービーエックス、日本ライフラインの6社。フローは直近予想(※WIN、日本ライフラインは直近発表数字)、アセットは直近開示資料を基に作成)

株主還元(配当性向35%以上)

株主還元策 配当性向35%以上を維持

(単位:円、%)



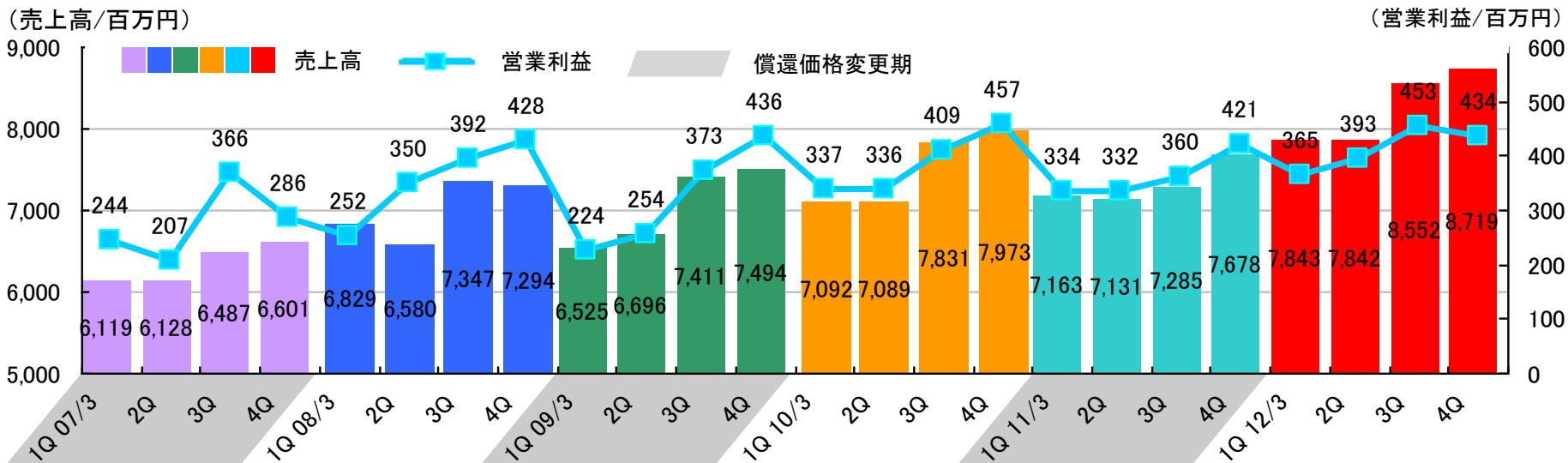


WIN INTERNATIONAL CO.,LTD.

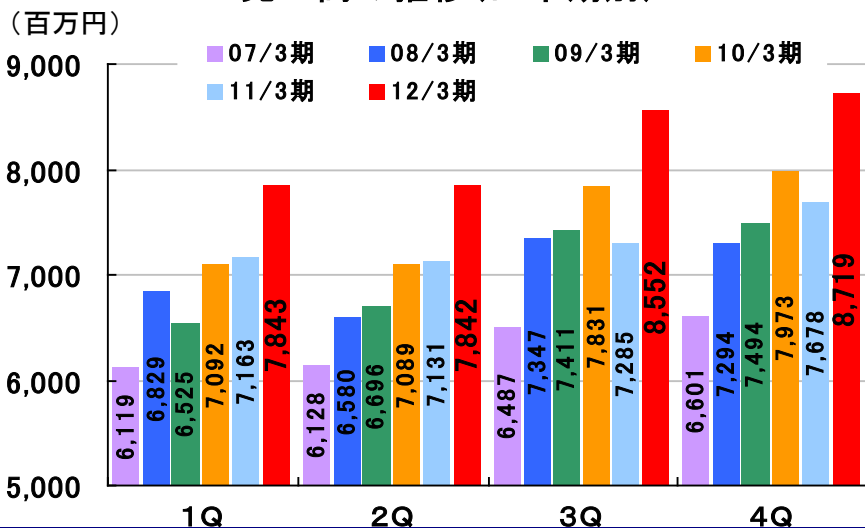
(ご参考)

(参考)四半期業績推移

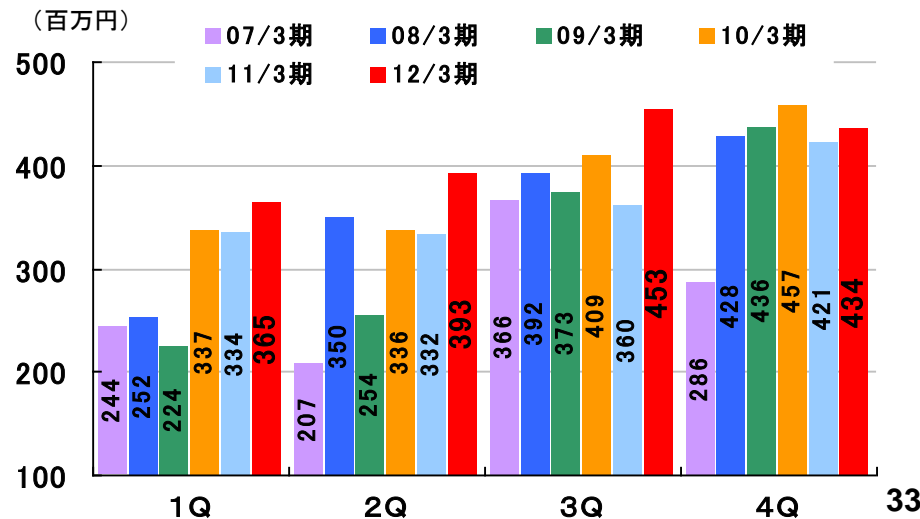
売上高／営業利益の推移(四半期)



売上高の推移(四半期別)



営業利益の推移(四半期別)



(参考)主要特定保険医療材料別分析

(単位：%)

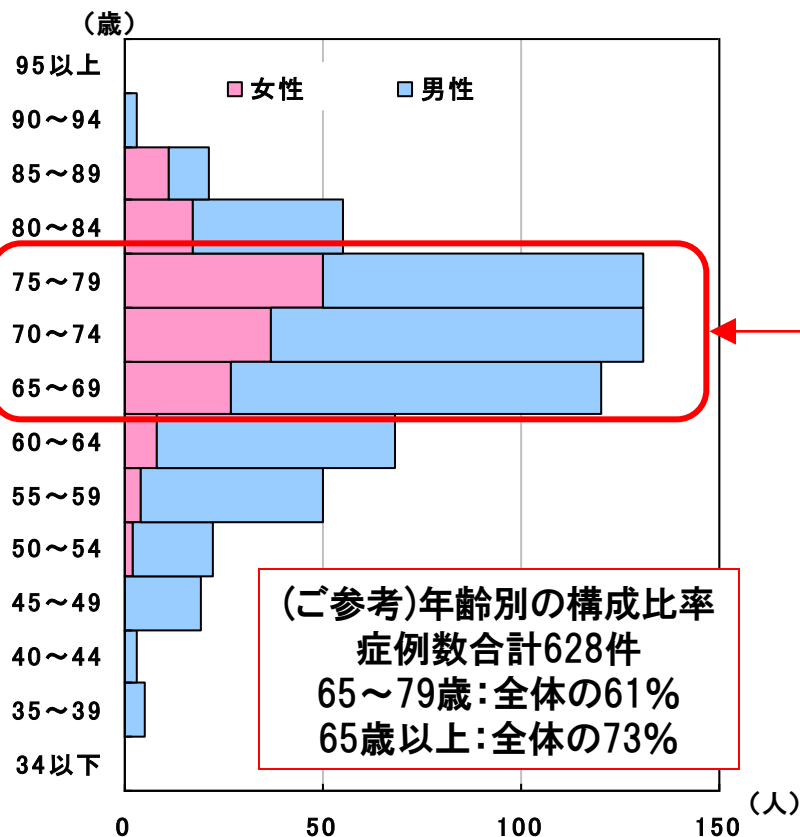
商品区分	伸長率		売上構成比	
	数量	売上	2012年3月期	2011年3月期
■ 虚血性心疾患関連(PCI)	5.9	6.1	59.8	62.0
PTCAバルーンカテーテル	4.9	3.0	9.1	9.7
BMS(ベアメタルステント)	▲ 25.5	▲ 27.1	4.1	6.2
DES(ドラッグエリユーティングステント)	18.4	16.9	23.9	22.5
IVUS(血管内超音波診断用カテーテル)	7.3	6.5	7.4	7.6
その他PCI関連	6.0	5.7	15.3	16.0
■ 心臓律動管理関連(CRS)	13.8	7.7	17.6	18.0
ペースメーカー関連	10.3	10.7	6.1	6.1
ICD/CRT-D関連等(植込み型除細動器等)	▲ 0.5	▲ 2.0	4.5	5.0
EP・アブレーション関連 (電気生理検査用カテーテル・心筋焼灼術用カテーテル)	15.3	15.1	4.4	4.2
その他CRS関連	13.9	7.8	2.6	2.7
■ 心臓血管外科関連(CVS)	21.4	29.6	13.2	11.2
■ 末梢血管疾患関連(PPI)	19.6	20.7	6.1	5.6
■ 脳外科関連	14.3	15.7	3.2	3.1

※速報版数値による分析(2次店への販売等は除外)

(参考)事業環境～患者数の見込み～

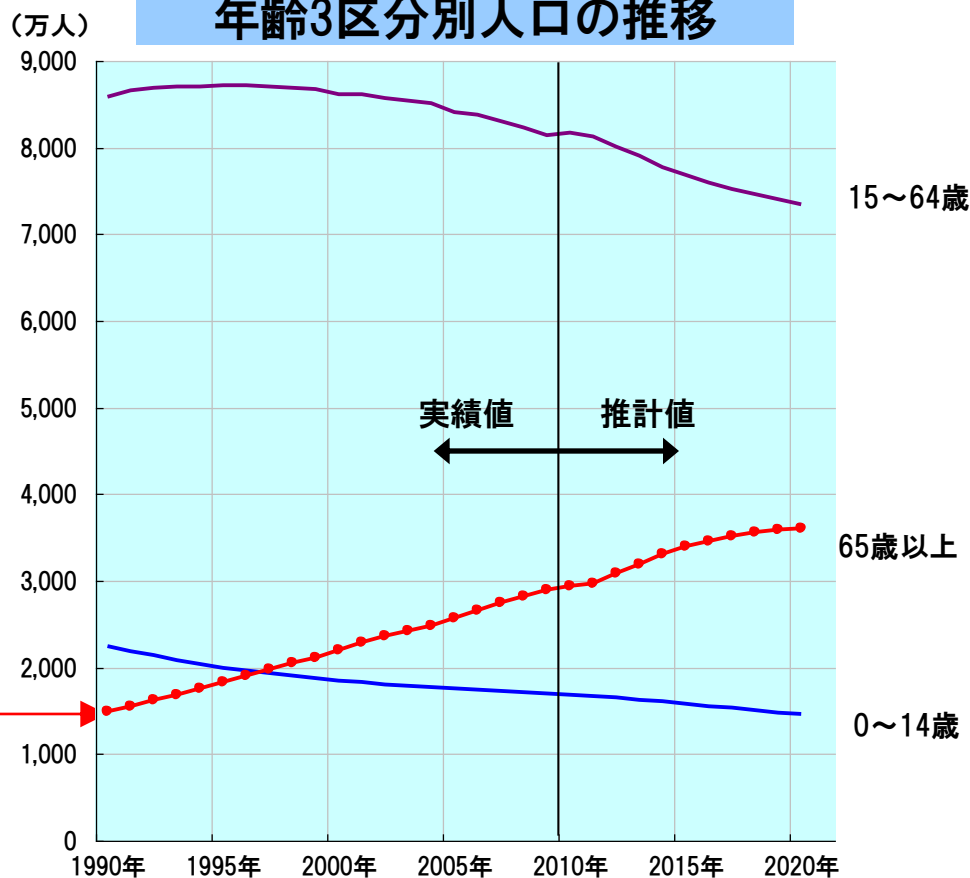
【PCI】(虚血性心疾患関連): 中心患者である65歳～79歳の人口は増加が続く

心臓カテーテル治療症例数(年齢別)



(出典)当社取引先の3ヶ月間の年齢別症例数

年齢3区分別人口の推移



(出典)国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計」(平成24年1月推計)

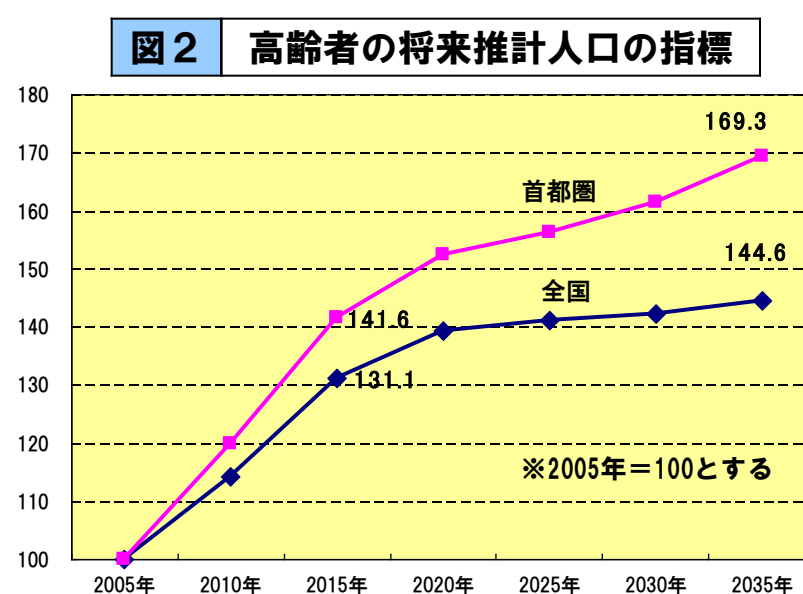
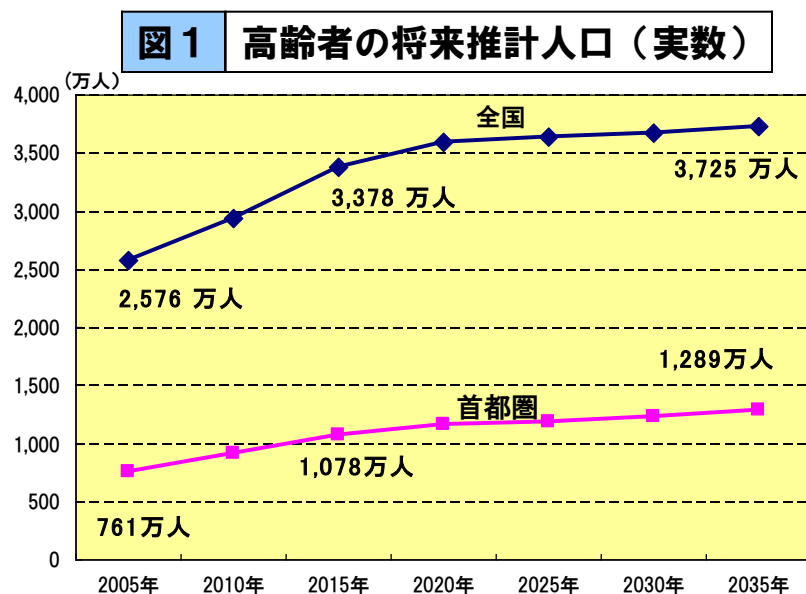
(参考)事業環境～首都圏の高齢化～

高齢者人口の動向

■2015年までの高齢者人口の増加状況

【首都圏の高齢者人口】《2005年》761万人 → 《2015年》1,078万人…約320万人増加（図1）。

【高齢者人口増加率】指標:2005年を100 → 2015年《全国》131.1 < 《首都圏》141.6（図2）。



(出典)国立社会保障・人口問題研究所 「日本の市町村別将来推計人口」(平成20年12月推計)

低侵襲最新医療システムを提供する ウイン・インターナショナル

この資料は投資家の参考に資するため、株式会社ウイン・インターナショナル(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、2012年5月10日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資を行う際は、投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料に関するお問合せ先



WIN INTERNATIONAL CO.,LTD.

株式会社ウイン・インターナショナル

総務部 IR担当

TEL: 03-5688-0878 FAX: 03-5688-0891

HP: <http://www.win-int.co.jp>